

WEBROOT®



## 既存のウィルス対策 ソフトウェアで発見できなかった マルウェアの検出力を高く評価

パターンファイル不要で学生がストレスなく利用できるようになり、クラウドによる統一したセキュリティの提供で学内PCセキュリティの向上につながった。



大阪産業大学  
OSAKA SANGYO UNIVERSITY

### 学校法人 大阪産業大学 企業概略

大学設置：1965年  
創 立：1928年  
学校種別：私立  
設 置 者：学校法人大阪産業大学  
本部所在地：大阪府大東市中垣内3-1-1  
学 長：中村康範  
理 事 長：吉岡 征二郎

### 導入以前の状況

- ・パターンファイルの更新失敗により学内PCセキュリティの低下を招いていた
- ・パターンファイルの更新負荷が授業に影響を与えていた

### 導入効果

- ・パターンファイル更新が必要ないクラウド保護により学内のPCセキュリティを向上
- ・更新が不要になり学生が授業に集中できるようになった

「偉大なる平凡人たれ」を建学の精神とする大阪産業大学。1965年の創立から、約8万人の卒業生を社会に送り出し、現在は7学部16学科、4研究科、12専攻に約8,100人の学生が在籍しています。IT教育にも積極的で、160台のPCが並ぶ演習室をはじめ、学内では1,000台を越えるPCが運用されています。稼動するPCの多さから、導入していたシマンテック エンドポイントプロテクションのパターンファイル更新ができていないPCの割合も多く、結果として新たな脅威に対して後手に回るといった課題を抱えていました。

この問題を解決するために、同大学ではクラウド型のアプローチによるウェブルートのセキュリティ製品を採用しました。

### 課題

#### ITに詳しい学生がパターンファイルの更新を止めてしまう

プログラミング入門教育と教育支援ツールの開発を研究テーマにしている大垣准教授は、ウェブルートを採用する前に学内のPC環境が抱えていた課題を次のように振り返ります。「大学のネットワークは、常にクラッキングやマルウェアの侵入など、外部からの脅威に晒されています。そのため、ずっと以前からセキュリティ対策には注意を払ってきました。それでも、セキュリティ対策を強化すればするほど、授業に支障の出る問題が発生していました」

授業に影響を与えるという以前のセキュリティ対策について、情報技術の化学への応用などに取り組んでいる情報科学センター所長の高根慎也教授は、次のように補足します。「演習室にあるPCは、学期のはじめにディスクの内容を授業に合わせて更新します。そこから前期や後期の授業を行うのですが、以前に導入していたシマンテック エンドポイント プロテクションでは、PCを起動するたびにパターンファイルの更新を行って



大阪産業大学 情報科学センター所長  
教授 高根 慎也



大阪産業大学 准教授 大垣 斉



富士通ネットワークソリューションズ株式会社  
インテグレーション&サービス本部  
関西システム&サービス部  
システムグループ 小山 翔平

ました。そのため、前の日にアップデートされていないPCがあると、そのPCだけ処理が遅くなり、授業にも支障が出ていました。さらに学生の中でITに詳しい者がいると、原因がパターンファイルの更新だと分かっていて、その処理を中断してしまう者もいました」

利用する学生によって、パターンファイルの更新にばらつきが発生したことにより、学内のPCのセキュリティ対策は、万全とは言えない状況になりました。この課題を解決するために、富士通ネットワークソリューションズ株式会社のインテグレーション&サービス本部関西システム&サービス部 システムグループの小山翔平氏に、解決策が託されました。

## ソリューション

### 検証でウェブルートが未知のマルウェアを発見

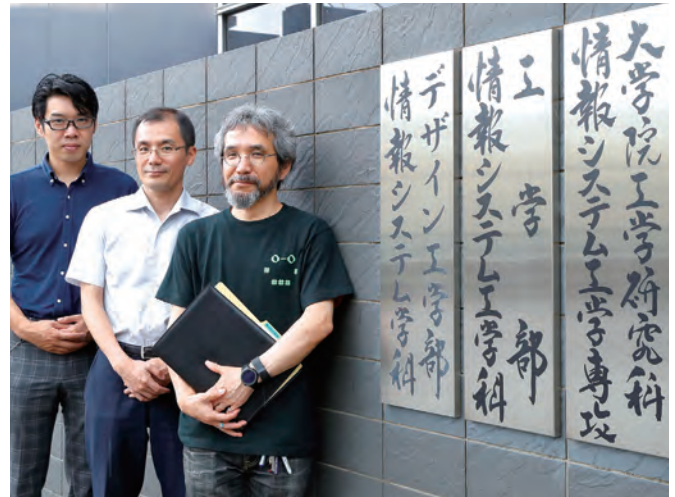
大阪産業大学のPCが抱えていたセキュリティ対策の課題解決を託された小山氏は、IT関連の展示会でウェブルートの製品を知りました。小山氏は「定義ファイルを端末にダウンロードする必要がないクラウドベースの検出システムに興味を持ちました。パターンファイルの更新が運用のボトルネックになっていたため、それがなければ学生が処理を中断してしまう心配もありません。ただ最初にウェブルートという社名を聞いたときには、知らない会社だと思いました。しかし、シスコやA10などのセキュリティ アプライアンス製品のセキュリティエンジンとして採用されていると聞いて、それならば信頼できる製品だと判断したのです」と選定の理由を振り返ります。

Webroot SecureAnywhere® Businessエンドポイント プロテクションによるマルウェア対策の仕組みと機能に注目した小山氏は、その性能を確認するために学内で検証を行いました。一台のPCに、シマンテックのウィルス対策ソフトウェアとWebroot SecureAnywhere® Businessエンドポイントプロテクションを併用させて、どちらが未知のマルウェアを検知できるかどうか試したのです。結果は「Webroot SecureAnywhere® Businessエンドポイント プロテクションだけが、未知のマルウェアを検出できました。その高い検出能力にも驚きましたが、もしも試験的に利用していなかったら、学内のPCが未知のマルウェアに感染していたかも知れません。この検証結果から、今後はパターンファイルの更新だけではPCを守れないと実感しました」と高根氏は話します。

### 導入効果

#### 約1,400ライセンスで学内のPCを未知の脅威から守る

Webroot SecureAnywhere® Business エンドポイント プロテクションの採用を決めた大阪産業大学では、約1,400ライセンスを契約し2017年3月にPCの更新と合わせて導入しました。学内システムの更新を担当した小山氏は「エージェントのファイルサイズが1MB未満



なので、インストールも数秒で終わりました。パターンファイルの更新が不要になり、PCの性能を強化したことと合わせて、学生がストレスなく利用できるようになりました。またクラウドによる保護のためウェブルートを導入しているPCは同一のセキュリティレベルとなり、学内のセキュリティレベルの向上も実現できました」と導入の効果を説明します。

また大垣氏は「大学としてもITリテラシーを向上するための一環として、入学時のオリエンテーリングで説明したり、サイトの掲示板でセキュリティ情報を提供したりしています。それでも、自分が危ない意識している学生が少ないので、ウェブルートのように自動的に守る仕掛けを強化することは、とても重要です」と話します。導入から約半年が経過し、前期の授業が終わるまでマルウェアなどの感染被害は発生していません。高根氏は「セキュリティ対策は費用対効果が見えないので、評価が難しいのですが、ウェブルートを使うようになって、安心感は増えていると思います」と評価します。

### 今後の展望

#### 職員向けやタブレットにスマートフォン対応も検討していく

「約半年の運用実績で、Webroot SecureAnywhere® Businessエンドポイント プロテクションの性能は実感できました。今後は、学生向けのPCだけではなく、職員が利用する環境にも導入を検討していきます」と高根氏は今後に向けた取り組みについて触れます。また大垣氏は、「スマートフォンの普及により、フリック入力に慣れている学生が増えました。そのため、キーボードによる授業に抵抗を示す学生もいます。将来的には、学内のIT機器もタブレットなどを導入していくべきかと考えています。そうした状況でも、Webroot SecureAnywhere® Business エンドポイント プロテクションが、未知の脅威から端末を保護してくれると期待しています」と話します。

お問い合わせ **WEBROOT®**

ウェブルート株式会社

〒107-0062 東京都港区南青山 3-13-18 313 南青山 8F

URL <http://www.webroot.co.jp/>

WebrootJapan

@Webroot\_JP